

OFC NEWSLETTER

Open Faculty Center

Graduate School of Economics, School of Economics, Osaka University

第22号 2022年4月発行

OFC講演会

- 第63回 命を大切にする社会を目指して
—大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)の理念と活動— …… P 2
- 第64回 街の中の、暮らしの中の経済学 …… P 4

LECTURE

- 「アセットマネジメントの理論と実務」2021/4～（毎週水曜日全15回）…………… P 6
- 「財政・金融と関西経済の現状等」2021/4～（毎週金曜日全15回）…………… P 7

ECOCA (経済学部同窓会) 学生部会

- 学生部会活動への支援 …… P 8

OFC運営委員長より

パンデミック下の新しい生活様式が必要とされる中、OFC活動もまた講演会事業をはじめ多彩な催し、企画・運営のあり方活動のあり方にも多くの変革が求められた一年であったと思います。一昨年、20年という節目を迎えてからわずか一年あまりではありますが、大学にもそして社会にも、おそらく元に戻ることはない、未知のもの、新たなものに向けて開かれた体制が求められており、そうした適応の欠如したところから、古いものは自然に淘汰されていく、そのような厳しい選択の時代に入ったという自覚が必要になって来ているように思われます。OFCの設立目的である大学と実業界との橋渡しということにおいても、大学の意義、産業の意義、仕事の意義、それらが「生きる」ということの意義とともに、大きく問い直されている昨今です。ECOCAあるいは同窓会とともに、新入生向けのサポート、2、3年生向けの就職相談、4年生向け卒業イベントのあり方などを通じ、大学と実業界の「これから」の協力体制について、改めて考えていかねばならない、重要な時期に来ていると思います。OFC活動の一層の発展、展開のため、皆様方のご理解と、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

大阪大学大学院経済学研究科 教授 OFC運営委員長 浦井 憲

第63回 講演会 要 旨

「命を大切にする社会を目指して —大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI)の理念と活動—



2021/6/11 於：オンライン

大阪大学大学院
経済学研究科 教授
社会ソリューションイニシアティブ長

堂目 卓生 氏

新型コロナ・ウィルス感染症によって、誰もが「社会的弱者」になり得る時代にあることが分かりました。しかし、普通に生活していた人を「社会的弱者」にする可能性は、震災や台風等の災害、気候変動、水不足、紛争等、どの社会課題も持っています。ですから、たとえコロナ禍を切り抜けたとしても、こうした時代が続くと考えなくてはなりません。

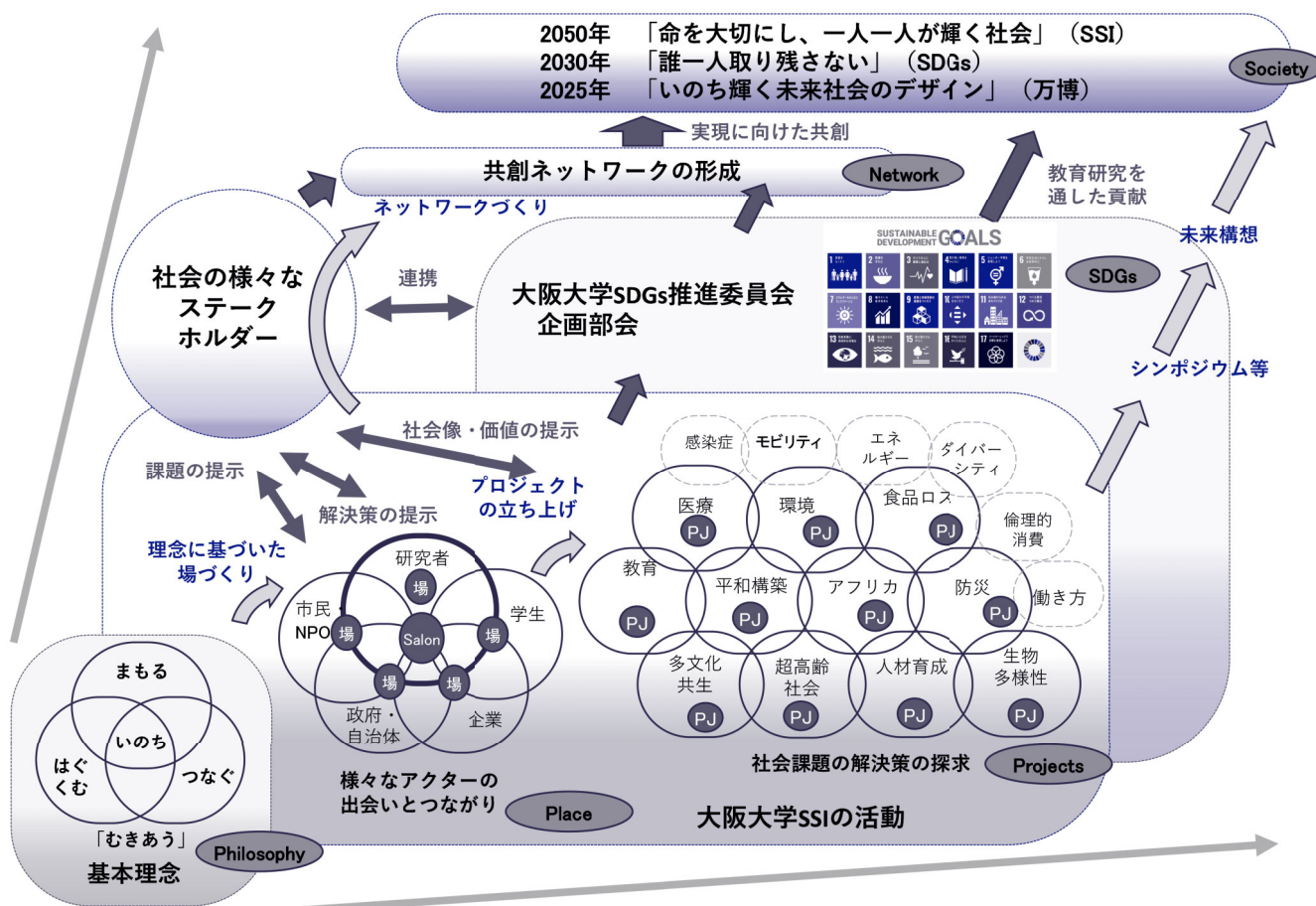
私は、コロナ禍が起こる前の2018年、学内に「社会ソリューションイニシアティブ (SSI)」というシン

クタンクを立ち上げました。SSIは、「命」をキーワードとし、2050年に実現すべき社会を「命を大切にし、一人一人が輝く社会」と考えます。そして、「まもる」、「はぐくむ」、「つなぐ」という3つの視点から社会課題の解決に取り組んでいきます。大阪大学の人文学・社会科学系部局が中心となって、理工系・医歯薬系など自然科学系の研究者と連携を図りながら、さらには、パブリックセクターや民間企業など、さまざまな社会のステークホルダーと協働しながら社会課題の発見と解決を進め、持続可能な社会を構想します。

SSIは、3つのステップからなる螺旋的循環を繰り返しながら取組を進めていきます。

ステップ1として、「命を大切にし、一人一人が輝く社会」とはどのような社会かを考え、その構想のもとで、解決しなくてはならない課題を発見し整理する「場」を設けます。たとえば、学内外の人びとが集う30人規模の「サロン」を開催し、個別の課題について、あるいは将来の社会について意見を

SSI が拓く未来への道



出し合い、共有します。

ステップ2は、課題ごとに「基幹プロジェクト」を作ります。プロジェクトには学内の研究者だけでなく、学外の研究者、あるいは実務家、さらには大学院生等が含まれ、全部で10人ぐらいのチームとなります。プロジェクトの期間は3年～5年です。プロジェクト終了時には何らかの政策提言を出します。

ステップ3では、シンポジウム等を開催し、プロジェクトの活動を踏まえながら、目指すべき社会を構想します。そして更新された構想をもとに、解決すべきさらなる諸課題を発見します。つまりステップ1に戻って、新たなラウンドを始めます。このような循環を他大学や様々な機関との連携を助けながら、2050年まで30年つづけます。

この3年間、以上のような「場づくり」、「プロジェクト」、「社会との意識共有」に取り組んできましたが、今後はSDGs推進、および万博に向けた取組も進めたいと考えています。

重要なのは、活動のプロセスにおいて、社会の様々なステークホルダーと、課題や解決策、社会像・価値を双方向で提示していくこと、そして、互いに助け合う「共創ネットワーク」を形成することです。この「共創ネットワーク」こそ、目指すべき社会の具体的な形を定め、実現すると考えます。少数の「イノベーター」が突然社会を変えるのではなく、無数の無名の人びとが信頼関係を結び、情報を交換し、助け合うことによって社会変革は起きると考えます。これは、私が30年間続けてきた歴史研究から導いた結論です。

「命」という概念を出発点にし、「共創ネットワーク」の形成を通じて、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする大阪・関西万博、2030年をターゲットに「誰一人取り残さない」を掲げるSDGsを経て、2050年に「命を大切に、一人一人が輝く社会」を実現する。これが、SSIが拓く未来への道です。

詳しくはSSIのホームページをご覧ください

(<https://www.ssi.osaka-u.ac.jp/>)。

第64回 講演会 要 旨

「街の中の、暮らしの中の経済学」

2021/10/15 於：阪急グランドビル



大阪大学大学院
経済学研究科 講師

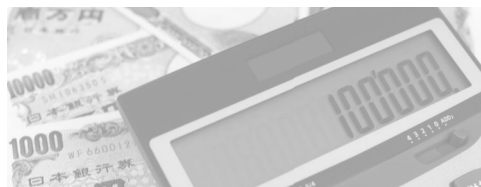
新田 啓之 氏

この講演では、みなさんに経済学の難しい理論ではなく、日常の中で他の誰かに話したくなるような親しみやすい話題を提供したいと思います。

まず、最初に、この20年、最も失われたものは何でしょうか？

家計調査という統計を見ると、世帯全体(2人以上で仕事をしている世帯)の実収入は、2000年から減少、その後増加し、2018年には2000年並みに回復しています。その中で、世帯主(多くはお父さん、夫)は減少(-28,387円)、世帯主の配偶者(多くはお母さん、妻)が増加(+35,089円)しています。社会保障等の支出は増加(+16,653円)、消費支出は減少(-36,085円)し、その大半(-32,802円)が、お小遣い、交際費である“その他の消費支出”です。一方、貯蓄が増加(+106,137円)しています(コロナ前の2019年も数字は違いますが同様です)。夫の減収を、妻の増収と不要不急の支出(小遣い、交際費)の削減で補い、貯蓄を純増させている、そんな働く世帯の姿が見える気がします。

翌月以降の引落されるクレジットカードなど増加や新型コロナの影響もあるでしょうが、将来への不安から消費を増やす気になれないでしょうか。“お父さんの小遣い”を戻してあげれば失われた20年は取り戻せる、そんな簡単な話ではないかもしれませんが、社会構造も変化など単純に比較できないかもしれませんが、みなさんの実感に合っているのでしょうか？



次は、飲食チェーンのスターバックス（スタバ）の店舗の話です。都心ではお洒落なビルに集中し、郊外では鉄道沿線の“家と職場の間の駅”に立地することが多いようです。

“集中して立地”することをドミナント戦略と言います。近すぎる店舗はお客様の奪い合いになりそうなのに、どうしてこのように集中させるのでしょうか。メリットの1つは、認知度の向上です。「ここにもスタバがある」という風に存在を認知してもらう戦略です。もう一つはコーヒー豆などの配送効率です。店舗の距離が近いと、分散するよりも1日で回れる店舗の数が増え、コストが抑制されます。さらに、“もう入り込めないぞ!”というライバルへの牽制もあります。

鉄道沿線の“家と職場の間の駅”に立地するのはなぜでしょうか？

スタバのコンセプトの一つに、サードプレイスというものがあります。もとは、アメリカで唱えられた学説ですが、家庭(第1の場所)、職場・学校(第2の場所)ではない、3つ目の場所を指します。コミュニティから離れ、自分という個に戻るための場所。家から会社や学校に行き、そして家に戻る、その途中にある駅。ONとOFFの切り替えるサードプレイスにピッタリだと思いませんか？ みなさんのサードプレイスは、どこでしょうか？

最後に、みなさん、ご存じ、大人気の551蓬葉の豚まんです。

私が考える人気の秘密は、“美味しさ”、“思わず買う仕組み”、“お土産に最適”の3つです。

“美味しさ”へのこだわりの1つとして、モチモチの生地があります。豚まんの生地はセントラルキッチンと呼ばれる工場ですべて作られ、各店舗にその日の販売分のみを配送します。作り置きはしません。美味しい生地になるためには発酵が必要ですが、発酵しすぎるとダメになります。その限界は生地が出来てから150分。それより遠い地域は美味しさが損なわれるため出店しない“こだわり”。近い店舗は工場である程度発酵させ、輸送している間にベストな状態なるよう工夫しています。

思わず買う秘密は、豚まんを蒸す湯気ではないでしょうか。これは、私にとっては行動が誘発される“ナッジ”の1つです。また、「やっぱり、豚まんは蒸したてや!」と言いながら買ってしまいます。行動経済学というバイアスだらけの私が、自分自身を納得させる言い訳です。先日も湯気と蒸したてに魅かれて豚まんを買いましたが、家に帰ると冷めていました。電子レンジで温めながら自分の愚かさを嘆きました(笑)。

お土産に最適な理由は“美味しさ”のため関西以外に出店しないことで生まれた“稀少性”です。ここでしか売ってないからこそ「買って帰ろう」という気になります。チルドの通販もありますが、お土産はやっぱり手渡しに限ります。また、お土産として“買いやすい”よう出張者や旅行者の多い新大阪駅に5店舗が集中しています。これらが551蓬葉の豚まんを大阪を代表するお土産の1つに押し上げたと思います。

関西限定の蒸したて豚まん。東京にも進出すべきか、みなさんはどう思いますか？



※以上2回の講師の方々の肩書きは講演時点のものです。

「アセットマネジメントの理論と実務」

開講期間：2021/4～2021/7

会場：豊中キャンパス 法経講義棟 3階5番講義室
オンライン（授業支援システムCLE内にてリアルタイム配信）

日本投資顧問業協会と投資信託協会からのご寄附により、資産運用の機能や社会的役割、リスクの概念、資産運用における予測や投資の手法、市場や法制度などのしくみについて、実務経験豊富な専門家により講義が行われました。

第1回(4/14)



「投資資産(株式、債券)の リスクとリターン」

イボットソン・アソシエイツ・ジャパン(株)
取締役会長 **山口 勝業** 氏

第2回(4/21)

「アセットアロケーションと分散投資」

前ノーザン・トラスト・グローバル・インベストメンツ(株)
アドバイザリ・ボード・メンバー

山田 正次 氏



第3回(4/28)



「ヘッジファンド」

あいざわアセットマネジメント(株)
代表取締役社長 **白木 信一郎** 氏

第4回(5/12)

「PE(プライベート・エクイティ)投資」

ティーキャピタルパートナーズ(株)
取締役社長 マネージング・パートナー
佐々木 康二 氏



第5回(5/19)



「REIT、不動産証券化商品」

三菱商事UBS・REALTY(株)
元代表取締役副社長 **向井 稔** 氏

第6回(5/26)

「社会的責任投資(ESG投資)」

三井住友トラスト・アセットマネジメント(株)
シニアファンドマネージャー

杉原 邦幸 氏



第7回(6/2)



「投資資産の種類と グローバル・マーケットの動向」

アセットマネジメントOne(株)
運用本部 調査グループ
チーフエコノミスト **小出 晃三** 氏

第8回(6/9)

「金融商品取引法と アセットマネジメント」

アセットマネジメントOne(株)
執行役員リスク管理本部長

村岡 佳紀 氏



第9回(6/16)



「ファンドマネージャー・ アナリストの業務」

TMインベストメント(株)
代表取締役 **水野 隆秀** 氏

第10回(6/23)

「自主規制とコード」

日本投資顧問業協会
副会長 **岡田 則之** 氏



第11回(6/30)



「株主によるガバナンスと 企業行動・企業価値」

(株)日本投資環境研究所
SRコンサルティング部
シニアコンサルタント **加藤 栄治** 氏

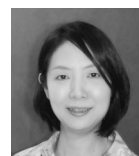
第12回(7/7)

「金融デリバティブ取引」

Tokio Marine Asset Management (USA), Ltd.
CEO&CIO **河西 洋文** 氏



第13回(7/14)



「投資信託」

シンクタンク・ソフィアバンク代表
藤沢 久美 氏

第14回(7/21)

「日本の年金と アセットアロケーション」

システム2(株) 代表取締役
(大阪ガス(株) 前財務部担当部長)

石田 英和 氏



第15回(7/28)



「アセットマネジメントビジネス」

PIMCO シニアアドバイザー
(ピムコジャパンリミテッド)
前取締役兼最高経営責任者(CEO)
松井 昭憲 氏

※講師の方々の肩書きは講義時点のものです。

「財政・金融と関西経済の現状等」

開講期間：2021/4～2021/7

会場：豊中キャンパス法経講義棟5番教室

財務省・近畿財務局協力のもと、わが国の財政の現状や財政健全化への政府の取組、金融システムの特徴と変遷、関西経済の現状などについて講義を行いました。

第1回(4/9)



オリエンテーション (財務局が担う役割)

近畿財務局

総務部次長 花田 一夫 氏

第2回(4/16)

地域金融機関と監督行政

近畿財務局

金融監督官 原 崇 氏



第3回(4/23)



我が国の税制の現状等

財務省 主税局総務課兼調査課

課長補佐 松本 篤人 氏

第4回(5/7)

国有財産行政

近畿財務局

管財部次長 上乘 弘樹 氏



第5回(5/14)



最近の経済情勢について

近畿財務局

経済調査課長 永山 孝明 氏

第6回(5/21)

我が国の財政の現状

近畿財務局

局長 奥 達雄 氏



第7回(5/28)



国際金融

財務省

課長補佐 古市 庸平 氏

第8回(6/4)

証券業務等と監督行政

近畿財務局

金融監督官 西方 正弘 氏



第9回(6/11)



証券取引監視業務

近畿財務局

証券取引等監視官 巾田 由則 氏

第10回(6/18)

税務行政の現状と課題

大阪国税局

課税第一部長 山本 学 氏



第11回(6/25)



国債管理政策

財務省

課長補佐 山崎 寛一 氏

第12回(7/2)

我が国の金融商品取引所

市場について

大阪取引所 金融リテラシーサポート部

調査役 玉岡 真一 氏



第13回(7/9)



雇用失業情勢と働き方改革

大阪労働局

局長 木暮 康二 氏

第14回(7/16)

中央銀行業務と金融政策運営

日本銀行 大阪支店

営業課長 山田 哲也 氏



第15回(7/30)



金融リテラシー・まとめ

近畿財務局

金融調整官 島田 佳樹 氏

※講師の方々の肩書きは講義時点のものです。

学生部会活動への支援

経済学部同窓会学生部会(ECOCA)は学部内交流の活性化を目的として創設されましたが、その活動に対する後方支援がOFC業務の一つとなっております。

2021年度のECOCAの活動は、前年に続いて新型コロナウイルスの影響を受けましたが、2021年度新入生に対しては、4月に研究科長はじめ多くの先生方のご協力をいただいて、新入生歓迎交流会(写真1)を開催することが出来ました。飲食を伴わない開催でしたが、「入学して初めて同級生との交流が出来た」と多くの新入生に喜んでいただき、運営を任されたECOCAスタッフにとっては大きな

自信に繋がったと思います。その経験を活かして10月のOB・OG交流会(写真2)、11月の企業探求セミナー(写真3)も対面で開催することが出来ました。コロナ禍の中でのイベント開催という経験は、ECOCAスタッフにとって貴重な財産になったと思います。

早く、新型コロナウイルスの感染が収束し、コロナ禍で培ったノウハウも活かしながら、これまで以上の活動が出来るようになればと祈っております。

OFCとしても、学生部会の発展とスタッフ一人一人の成長を期待し、引き続き支援していきたいと考えております。



新入生歓迎交流会



OB・OG交流会



企業探求セミナー



ECOCAの一年

2021年度のECOCAが開催したイベントを各担当者からご紹介します！
また、今回紹介されなかった活動もHPで掲載しています！

4 新入生オンライン交流会 新入生歓迎交流会

いちよう祭

7 期末テスト

8 夏休み

9

10 OBOG交流会 留学生交歓パーティー

まちかね祭

11 企業探求セミナー

12 冬休み

1 オンラインゼミ懇談会

2 期末テスト

3 卒業記念イベント

春休み

新入生オンライン交流会

Zoomを使ったオンラインでの新入生交流イベントを行いました。2種類のゲームや新入生同士のフリートーク、スタッフを交えた相談会という内容でした。新入生も積極的に発言しており、新入生同士の親交を深める機会になりました。

① 田野 佑也
② 香川県
③ 自分の可能性を広げるため、色々なことにチャレンジしてみてください！

OBOG交流会

大阪大学経済学部のOBOGの方との交流会です。縦と横のつながりを深めることを目的に開催しました。コロナ禍のため準備は大変でしたが、周りが助けてくれたおかげで無事イベントを開催できました。周りの人の大切さを実感できたイベントでした。

① 福本 実子
② 大阪府
③ 大学生は自由な時間がたくさんあります。廊下、いろいろなことにぜひ挑戦してみてください！

オンラインゼミ懇談会

ゼミ選択に似て2年生とゼミ生の交流の場であるゼミ懇談会を、今年はオンラインで開催しました。研究テーマについてはもちろん、ゼミ生同士の仲の良さや雰囲気など、ここでしか聞けない話も多くありました。2年生がゼミ選択をする際の判断材料になれば幸いです。

① 成川 佳央
② 石川県
③ CLEにこまに見とましよう！

卒業記念イベント

例年は立食パーティーやビンゴ大会をホテルで開催していますが、2020年度は社会情勢を鑑みキャンパスで「卒業記念イベント」としてECOCA会員限定で空くしなしの抽選会を実施しました。例年とは違った動きを求められるイベント開催となりましたが、参加した4回生の方々には楽しんでいただけたように思います。

① 西岡 春紀
② 大阪府
③ 新入生の皆さん、入学おめでとうございます！

ECOCA運営メンバー同士でこんな交流もしています！

イベントを開催する以外にも、ECOCA運営メンバー同士が交流できる活動もしています！今年度はコロナ禍のため合宿ができませんでしたが、感染症対策が実施されている場所を選び、ボーリングや冒険テーマパーク、室内パーベキューに行き、親睦を深めました！

コロナのためできませんでしたが、例年はこんなこともやっています！

- ・ 留学生交歓パーティー 経済学部・経済学研究科に在籍する留学生と日本人学生がゲームなどを通して仲を深める交流会です。ゲーム担当のECOCAも全員が楽しめる景品付きゲームで盛り上げました！
- ・ 卒業祝賀会 経済学部卒業生に向けた、学生生活の最後を締めくくる祝賀会です。ホテルで立食パーティーやビンゴゲームなどを実施し、仲間との素晴らしい思い出になること間違いなしです！

新入生歓迎交流会

入学してまだ新しい新入生に、対面でもオンラインでも仲を深めてもらおう！というイベントです。オンラインでのイベントも多く、また授業もオンラインになってきていますが、感染症対策を徹底しながら対面でも交流の場を提供することができました。「双六を通して、友達を作ることができた」という声が多く、有意義な時間になったのではないかと感じます。

① 橋口 凌太郎
② 愛知県
③ 自由な大学生ならではの、原に行こう！

企業探求セミナー

このイベントは企業による業界・企業説明と少数人数での懇談会を通じて就活生だけでなく1～2年生にも業界・企業理解を深めてもらうイベントです。今回は業界ごとに13社、4日間で計12社にご参加いただきました。イベントを行うまでに困難なこともありましたが、先輩方に支えていただきながら無事実施することができ、良い経験になりました。

① 平田 美奈
② 京都府
③ 大学生の間に、やりたいことは何でも挑戦してみてください！

担当者プロフィール

① 名前
② 出身
③ 新入生への一言

編集後記

皆様のご支援をいただき、2021年度も本誌を発行することが出来ましたこと御礼申し上げます。

2021年度も新型コロナウイルスの影響を受けましたが、OFC業務の一つである講演会開催については、6月に東京講演をリモートに変更することで実施致しました。講師の堂目先生をはじめ、ご準備いただきました東京待兼会の委員の皆様には感謝申し上げます。一方大阪では、緊急事態宣言の解除を受けて、10月に対面での講演を開催することが出来ました。ただその際に人数制限を設けての開催となった為、申込の時点でお断りをさせていただきました皆様には改めてお詫び申し上げます。

また、例年多くの学生が履修を希望している「アセットマネジメントの理論と実務」と「財政・金融と関西経済の現状等」の2つの特殊講座につきましては、対面とオンラインを交えながらの開講と

なりました。OFCにとっては初めての経験で、当初は少々苦戦致しましたが、講師の皆様、履修生の皆様のご理解とご協力をいただき、最終講義まで無事に終えることが出来ました。

また、OFCが後方支援を行っている経済学部同窓会学生部会(ECOCA)の活動も、ECOCA運営スタッフの熱意と工夫により、これまでとは形を変えて新入生歓迎交流会やOBOG交流会・企業探求セミナーを対面でのイベントとして再開致しました。彼らにとっては貴重な経験になったと思います。今後も運営スタッフ一人ひとりの成長を楽しみに、彼らの活動を支えていく所存であります。

一日も早く新型コロナウイルスの感染が収束することを願うと共に、皆様のご期待にお応えが出来るよう努めて参りますので、引き続きご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。(OFC事務局)

大阪大学大学院経済学研究科・経済学部 Open Faculty Center (OFC)

OFC運営委員：

経済学研究科 教授 浦井 憲(運営委員長)
経済学研究科 教授 開本 浩矢
経済学研究科 准教授 許 衛東

OFC事務局：玉江 尚之 西村 尚子 勘原 綾 宮本 真理子
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-7
電話：06-6850-5259 FAX：06-6850-5268
E-mail：ofc@econ.osaka-u.ac.jp
http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/ofc/